

## 令和5年度三田市高校生議会 質問書

【質問者】3番 三田祥雲館高校 2年 田中 舜雅 (たなか しゅんが)

【担当課】総合政策部 未来戦略室 若者のまちづくり課

【答弁予定者】市長

【質問事項】三田市の人口減少問題について

【質問内容】

3番 高校生議員の三田祥雲館高校2年の田中 舜雅です。

わたしからは「人口減少に関する施策について」質問します。わたしは探究学習のテーマを選択するときに、いまの日本が直面している社会問題の1つである「人口減少」を選びました。人口減少は自治体の将来に大きな影響を与えることであり、わたしたちの世代もこの問題に取り組む必要があると思ったからです。

「三田市人口ビジョン」によると、三田市では2011年をピークに人口減少が始まったとされています。出生数を死亡数が上回る「自然減」に加え、2012年以降顕著になっている転出者の数が転入者の数を上回る「社会減」が主な要因です。特に20代の若者の転出超過傾向が強いことは、大きな課題です。

「三田市人口ビジョン」で三田市は「まちの魅力づくりと「移住」「定住」の促進」を取り組みの方向の一つとされ、また、若い世代を呼び込むための様々な取り組みを進めると計画されています。確かに、誘致は必要ですが、わたしは流出を防ぐための取り組みを焦点化すべきだと考えます。わたしの周囲でも大学進学を機に三田を離れる人が多いですが、卒業後は三田に戻りたいという声を聴くことは残念ながら多くはありません。この現状を変えるには、雇用の創出や交通インフラの拡充、さらには子育て支援などが欠かせません。将来の労働世代にとっても魅力あるまちづくりに力を入れていただきたいです。

そこで、大学を卒業した時点で地元三田への就職を奨励する助成金を導入し、市内高校に在学中からその案内などを通して三田市での就業をアピールしてはどうでしょうか。隣接する丹波篠山市は「丹波篠山市新規学卒者就職奨励金」、丹波市は「丹波市ふるさと就職奨励金」を導入されています。三田出身の若者にも、そのように、助成金という形をとり、三田に戻って就業してほしいという温かなメッセージを送ってはどうでしょうか。さらには、就業の形態についても、リモートワークや起業、さらには

時短勤務など多様な働き方を支援する取り組みになってほしいです。

以上のように、わたしは人口減少問題に対応するために、若者への大学卒業時の就業支援に力を入れ、三田の若者の流出を防ぐよう施策を重点化してほしいと思います。そこで、三田市の人口減少に対する具体的な取り組みと今までの成果についてお聞きしたいです。市の考えをお聞かせください。

---

### 【答 弁 内 容】

議員のご質問にありますとおり、本市におきましても、人口減少問題への対応は喫緊の課題となっています。

若年層、とりわけ 20 代の転出超過傾向が強いとの議員からのご指摘でございますが、就職や進学を契機とした若年層の転出傾向は、近年に始まったものではなく、これまでから同様の傾向にありました。

一方で、本市の人口は、ニュータウン開発によって転出を上回る転入があり、長らく人口が増加する局面にあったことから、若年層の転出も、それほど顕在化してきませんでした。

しかしながら、ニュータウン開発による大規模な住宅供給も終了し、転入者が減少したことや、限られた期間に多くの転入者を迎えたことによる人口構造の偏在化、高齢化の進展等により、人口は減少に転じました。

平成 30 年 4 月～令和 5 年 4 月の 5 年間で、20～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳の年齢区分では 24%の人口が減っています。転出が転入を大きく上回っています。この状況をしっかり分析する必要があると考えています。

また、ハローワーク三田の有効求人倍率は令和 5 年 9 月では 0.63%と兵庫県全体の 1.01%に比べ大きく下回っています。つまり、働きたくても働けないという状況が続いています。

こうした状況に対応するため、本市では「移住・定住の促進」に取り組んできました。移住相談窓口の設置や、オンラインツアーの開催等を実施しておりますが、若い世代を対象の中心に据えた事業としましては、住宅循環を促進する「住み替え支援事業」や、若年層の婚姻・定住を促進する「結婚新生活支援事業」を実施しています。

また、若者が三田のまちに愛着を持ち、住んでもらうためには「ふるさと意

識の醸成」が重要であると考えており、令和3年度から「地域活躍人材育成事業」と題して、市内の大学生と地域の企業をつなぎ、企業の課題解決を通じて地域で働く・暮らす選択肢を学生に広げる事業を実施しています。

これまで、この「地域活躍人材育成事業」には延べ30数社を超える企業のご協力のもと、約50名の学生にご参加いただき、その中から市内企業に就職した方もいらっしゃいます。

その他、市内企業と学生、若者等とのマッチングを目的に「若者就職応援企業訪問バスツアー」の開催、また三田市商工会等と連携した「実践創業塾」や「創業支援セミナー」の開催など、地元での就業や起業を推進しています。

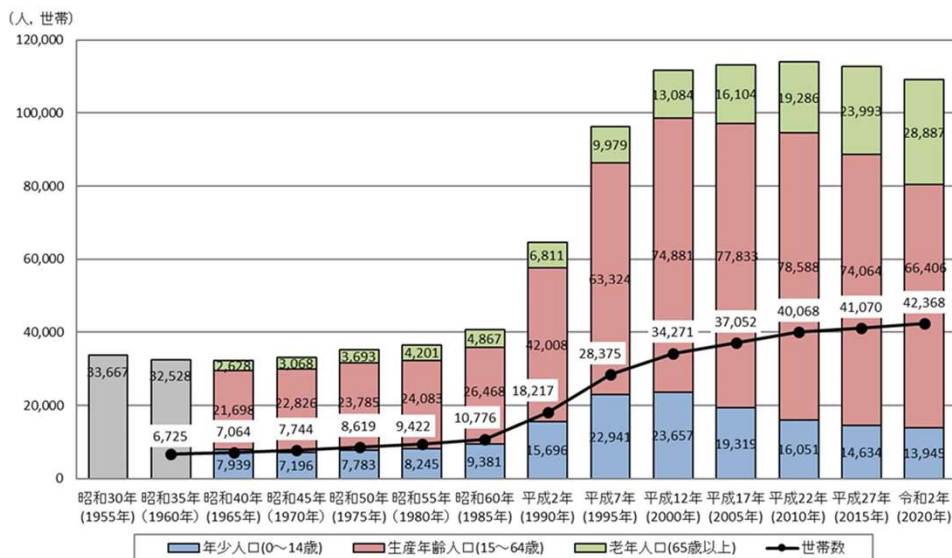
なお、ご提案の「就職を奨励する助成金」については、卒業後の進路を考えるきっかけになるものとして他市での事例もありますが、本市としては卒業される学生の皆さんが将来の夢や希望を叶える就業先として市内企業を選択していただけるよう、魅力ある企業の誘致や市内企業のPRなどに注力してまいりたいと考えています。

また、三田市商工会が運営するインキュベーション施設「コアラボさんだ」や市民センターに「リモートワーク&スタディブース」を設置しており、さまざまな方にリモートワークやオンライン会議などでご活用いただいています。

いずれにいたしましても、議員をはじめとする若者の活躍が周囲の多様な世代の方々にも好影響を与え、まち全体に元気を与え、活気を生み出すものと認識しています。

今議会にご出席の議員の皆様を含めた若い世代の皆様には、様々な形で積極的にまちづくりに関わっていただき、三田の未来を担う中心として広く活躍していただくことを心から期待しています。

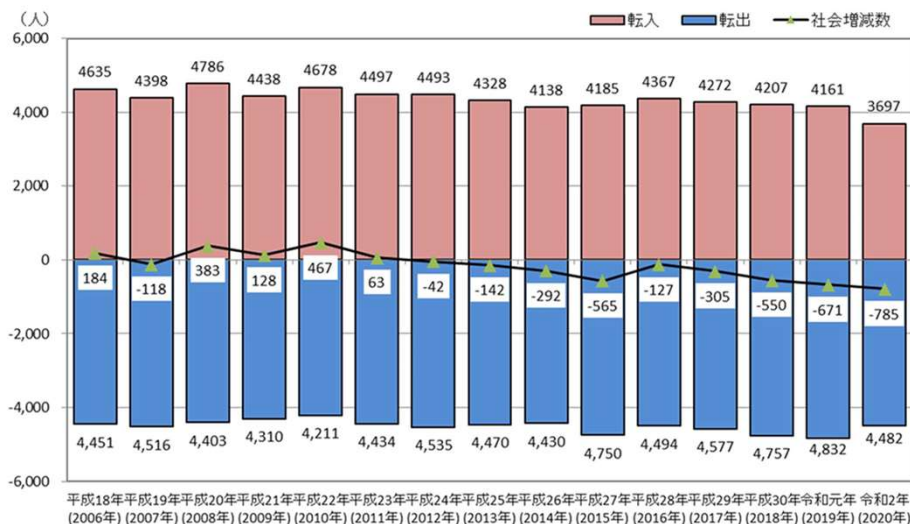
## 三田市における人口・世帯数の推移



「三田市人口ビジョン」令和4年4月三田市 P.2より転載

資料：国勢調査

## 三田市における転入数・転出数の推移

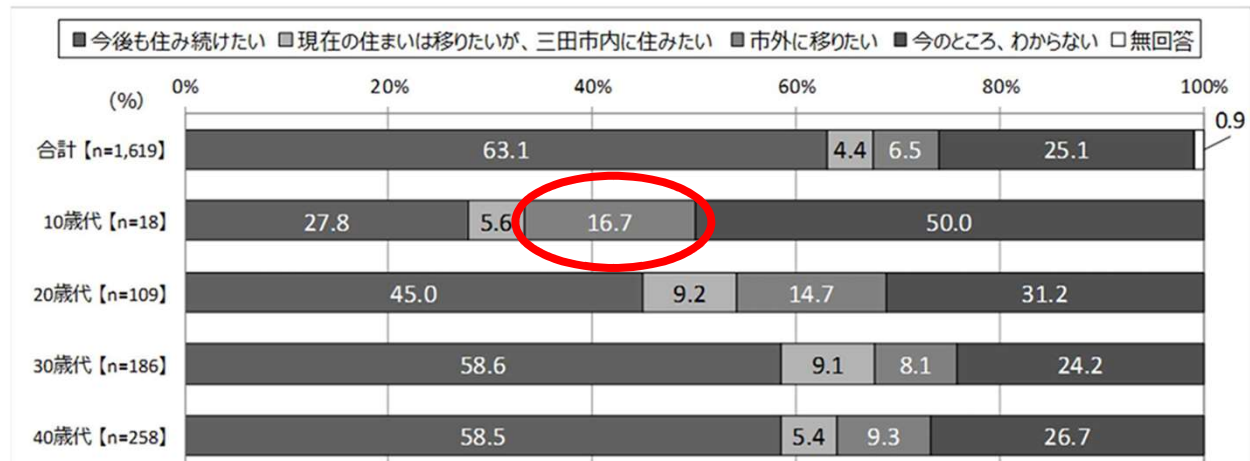


資料：三田市統計書

「三田市人口ビジョン」令和4年4月三田市 P.20より転載

# 10歳代の「市外に移りたい」人の割合が全年代で最も高い → 10歳代の意識改革に有効な施策を

今後の三田市での居住意向



「三田市人口ビジョン」令和4年4月三田市 P23.より転載